

# 古里地域学校園(岡本北小学校・白沢小学校・古里中学校)

## 1 研究テーマ及び研究の重点

### 研究テーマ

「学習内容定着度調査の正答率の向上を図る取組」

### 研究の重点

「書く力」を伸ばす

## 2 研究内容とまとめ(課題と成果)

- ① 合同研修会(平成25年9月18日) 会場:古里中学校  
 テーマ「学力向上～言語活動を通して～」  
 講師 宇都宮市教育委員会 山口和彦先生、川島聡史先生
- ② 各学校の取組



### ★岡本北小学校

- ・取組 「書く力」を伸ばすこととしては、ある条件を付けて(段落に分ける、一定の字数で書くなど)文や文章を書くことができる力を育成することを目指してきた。また、各学年で方策を決めて取り組んでいる。
  - 1年生…月曜日には漢字練習、土曜日には絵日記の宿題を継続して行い、家庭との連携を図ってきた。視写も重視して行っている。
  - 2年生…視写を大切に。漢字テストには家庭欄を作り、意識の向上を図り、協力をお願いしている。
  - 3年生…国語では文章表現で解答するプリント学習を定期的を実施。社会でも単元の終わりには文章でまとめるようにしている。
  - 4年生…算数で自分の考えを言葉や式、図を用いて表現し、互いの考えを共有する活動を大切にしている。
  - 5年生…行事や児童会等の活動後に、感想や反省を記録する。学習プリントも継続的に活用している。
  - 6年生…行事ごとに児童に振り返りの文章を書かせ、学年通信「6年生なう」として(一人4~5回掲載予定)発行している。
- ・まとめ 適切に「書く」ことで思考・判断力が養われ、表現にもつながっている。継続していきたい。



### ★白沢小学校

- ・取組方法 「書くこと」の指導の充実を図るとともに、朝の学習(プロジェクトS)や朝の会(1分間スピーチ)、家庭学習等の場を生かして、本校児童の実態に応じた基礎力の習得をめざす。
- ・取組の場と内容
 

国語	低中高の「書くこと」指導の目標を明確にし、書く目的や意図、相手に応じた文章を意識させる。
各教科・領域	考えや感想、気付き、まとめなど、「書く」活動を積極的に取り入れるとともに、指示を明確にする。
朝の学習	本校児童に必要な基礎力を計画的に位置付け、習得を図る。(9・10月:「書くこと」指導)
朝の会	1分間スピーチの原稿を書いて発表させることにより、書く力と発信力(自己紹介等)を育成する。
家庭学習	宿題に視写を加えることにより、集中力や文章表現の技法を身に付けさせる。
- ・まとめ 8月下旬に宇都宮市教育委員会の先生を講師としてお招きし、本校の取組へのご指導をいただいた。「書く」目標を明らかにすることは、何をどう書き、読む対象はだれなのかの指示の明確化につながり、児童の「書く」活動への取りかかりが円滑になってきている。

### ★古里中学校

- ・取組方法 各教科で、レポートを書いたり、発表原稿を書くなど、授業中の「書く」活動を積極的に取り入れる。また、その際に、文章の書き方や内容について、きめ細かい指導を行う。
- ・各教科の取組
 

国語	目的意識を明確にして表現する力や、伝える相手の立場を配慮して表現する力の醸成。	総読	毎時間ワークシートに「心に残ったこと」「気づいたこと」等を記入し、月1度のペースでブックレポートを書く
社会	資料を読み取り、わかることを自分の力でノートに書く。	音楽	鑑賞で、聞き取ったことと感じ取ったことの2点についてレポートを書く。
数学	説明前にノートにまとめてから説明させる。	美術	作品の鑑賞会でよいところを見つけて書く。
理科	実験の後にレポートを書く。	保体	毎時間の反省を文章で書く。
英語	自分の考えや自分自身について英文を書く。	技家	自己評価を文章で書く。

\*総読(総合読解)・・・「様々な分野の本に親しませ、興味関心を広げる」「読書を通して感じたことや考えたことを分かりやすく工夫して表現する力をつける」を目的とし、週1時間、1・3学年は半年、2学年は1年間行われている。

- ・まとめ
  - 各教科の特徴を生かし、普段行っている授業から「書く」ことを意識し、きめ細かい指導をすることができた。
  - これらの取り組みが学力定着度調査の結果に表れたかどうかは検証されていない。